

公開実用 昭和63- 43532

⑮ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-43532

⑨ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月23日

A 61 H 7/00
A 61 F 7/08

3 3 4

7242-4C
6737-4C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 温熱マッサージ用材

⑰ 実 願 昭61-139227

⑱ 出 願 昭61(1986)9月9日

⑯ 考 案 者 宮 村 哲 夫

京都府京都市南区吉祥院中島町29番地 株式会社ワコール
内

⑲ 出 願 人 株式会社 ワコール

京都府京都市南区吉祥院中島町29番地

⑳ 代 理 人 弁理士 間宮 武雄

明 細 書

1 考案の名称

温熱マッサージ用材

2 実用新案登録請求の範囲

鉄粉、塩化物及び水分を保有した水分保持剤からなる化学的発熱材料を2枚のシートの間に挟んで極扁平袋状に形成された発熱体と、この発熱体の片面側に防水シートを介して接合された吸水性当接部材と、前記発熱体の他の片面側に取着された手挿入用の保持シートから構成した温熱マッサージ用材。

3 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、例えば傷病者の皮膚をマッサージをしながら清拭する場合に使用する温熱マッサージ用材に関する。

〔従来技術〕

一般に、皮膚を押圧しながらさすったり揉んだりして血液の循環をよくし、神経を鎮め、ま

た皮膚の弾力や艶を保つマッサージには、機器を使用する方法と、指先、掌を用いる方法とがある。とくに傷病者のマッサージにおいては、傷病者の容態等によってマッサージ加減がまちまちであるとともに、前記した本来のマッサージに加え、皮膚を清潔にすることも一つの要素となっていることから、前者の機器を使用したマッサージは殆ど実施されず、専ら、後者の手先、掌を使用したマッサージが実施されている。この手先、掌を使用したマッサージにおいては、直接マッサージ部位に手先、掌を当接して行なうか、マッサージ部位にタオルを掛けて或いは温湯に濡らしたタオルで擦りながらマッサージを行なっているのが現状である。

〔考案が解決しようとする問題点〕

ところが、このような手先、掌を使用して直接行なうマッサージにおいては、皮膚面を加温することなくまた湿らすことなく行なうので、皮膚面に痛みを与え十分なマッサージ効果を期待できないばかりか、皮膚面の汚れを無理矢理

擦り起こす結果となり、また、冬場においては皮膚面に接触する手が冷たいために、不快感を与える等の不都合がある点に問題があった。また、マッサージの際にタオルそのまま或いは温湯に浸して絞ったものをマッサージ部位に掛けて行なう場合であっても、多少の不快感の解消には役立つも、タオルの位置ずれ等により作業がしがたいばかりでなく、温湯を浸したタオルの速い冷却によって冷感を付与しこれで皮膚面を萎縮させ、また、皮膚面の清拭も十分にできない等の問題があった。

この考案は、手先、掌によるマッサージであるにもかかわらず、皮膚面に直接接触することなく、しかも、皮膚面に接触する部材が適度の温度を維持して冷感を与えることなくマッサージ効果を向上するとともに皮膚面を清拭する効果を発揮するところの温熱マッサージ用材を安価に提供することを課題としている。

〔問題点を解決するための手段〕

この考案は上記課題を達成するために温熱マ

マッサージ用材を次のような構成とした。

すなわち、この考案に係るマッサージ用材は、鉄粉、塩化物及び水分を保有した水分保持剤からなる化学的発熱材料を、2枚のシートの間に挟んで極扁平袋状に形成された発熱体と、この発熱体の片面側に防水シートを介して接合された吸水性当接部材と、前記発熱体の他の片面側に取着された手挿入用の保持シートから構成した温熱マッサージ用材を要旨としている。

〔作 用〕

上記構成したこの考案に係る温熱マッサージ用材は、通常、気密性の高い包装袋内に密封されており、使用時に前記包装袋より取り出して使用する。取り出された温熱マッサージ用材は、発熱体の化学的発熱材料が空気中の酸素との酸化反応によって発熱し、防水シートを介して接合されている吸水性当接部材を加熱するようになる。従ってこの吸水性当接部材に、水、ベビーオイル、沐浴剤等のいずれかを含ませる際には、これらの発熱体への浸透が防水シートで阻

止され発熱を阻害しない状態においてこれらが加熱されるようになる。そして、この加熱は、化学的発熱材料の酸化反応が終了するまでの長時間、すなわち、この温熱マッサージ用材によってマッサージ及び清拭を行なっている間充分維持されるようになる。

〔実 施 例〕

次に、この考案についての好適な実施例を図面を参照しながら説明する。

第1図は、この考案の1実施例であるマッサージ用材の斜視図、第2図は第1図のII-II断面図であって、純鉄、金属塩類、水分を含ませたおがくず、シリカゲル、繊維屑等から構成された化学的発熱材料1を、不織布で形成した扁平袋2に収納した発熱体3が、防水シート4と不織布シート5との間に介装されている。そして、防水シート4の面には、柔軟な布地、吸水性の高い材料等から構成される吸水性当接部材6が接合されている。一方、不織布シート5の面には、手先が掌まで挿入できる空間7が形成

された手挿入用の保持シート8が取着されている。

上記のように構成したこの考案に係る温熱マッサージ用材は、合成樹脂フィルムシート等の通気性を具備しない材料からなる包装袋に真空パックされており、使用時にこの袋から取り出して使用される。包装袋の開封によって発熱体3内は通気されて内部の化学的発熱材料1が酸化反応を起こし発熱する。使用に際しては、手を保持シート8に囲まれた空間7へその掌が発熱体側となるように挿入しするとともに、吸水性当接部材6へ水、ベビーオイル、沐浴剤等のいずれかを含ませて、吸水性当接部材6をマッサージ部位に当接してマッサージを行なう。この場合発熱体3の加熱によて、水、ベビーオイル、沐浴剤等を含ませた吸水性当接部材も温められているから、これがマッサージ部位に当てられても冷感を与えず、マッサージ部位を温めながらマッサージと清拭とが同時に行なえるようになる。

尚、以上は発熱体の片面側に防水シートを介して薄いシート状の吸水性当接部材を使用した例を図示説明しているが、これに限定されるものではなく、部厚い吸水性当接部材を使用する場合もある。また、発熱体の他の片面側には、不織布シートを介して保持シートを取着したが、これは発熱体から掌への伝熱を和らげ、化学的発熱体を構成している材料粉末の袋構成シートからの通過を抑えるためのものであるから、袋構成シートによっては、必ずしも必要なものではない。

〔効 果〕

以上説明したこの考案に係る温熱マッサージ用材によれば化学的発熱材料を収納した発熱体によって、防水シートを介して吸水性当接部材を加熱する構成とするとともに、吸水性当接部材に適宜の液体を吸収させ得る構成としたから、発熱体は化学的発熱材料の酸化反応によって発熱し、防水シートを介して接合されている吸水性当接部材とこれに含ませた液体を加熱するよ

うになる。従ってこの吸水性当接部材に、水、ベビーオイル、沐浴剤等のいずれかを含ませる際には、これらの発熱体への浸透が防水シートで阻止された状態でこれらが加熱されるようになる。そして、この加熱は、化学的発熱材料の酸化反応が終了するまでの長時間、すなわち、マッサージ及び清拭を行なっている間充分維持されるようになるから、タオルを温湯に浸して使う場合のように、短時間で低温化することなく、また、手を皮膚面に直接接触することなく、しかも、皮膚面に接触する部材が適度の温度を維持して冷感を与えることなくマッサージ効果を向上すると同時に皮膚面が清拭できる効果が得られる。また、発熱体の他の片面側には、保持シートを取着しているから、掌を挿入するだけで温熱マッサージ用材が確実に保持でき、手先を直にマッサージ部位に当接するのと同様の自由さでもってマッサージ及び清拭ができるようになる。さらに、発熱体と他のシート部材とを重合する簡単な構成であるから、材料コスト、

製作コストも安価で使い捨てに適した温熱マッサージ用材が提供できる。

4 図面の簡単な説明

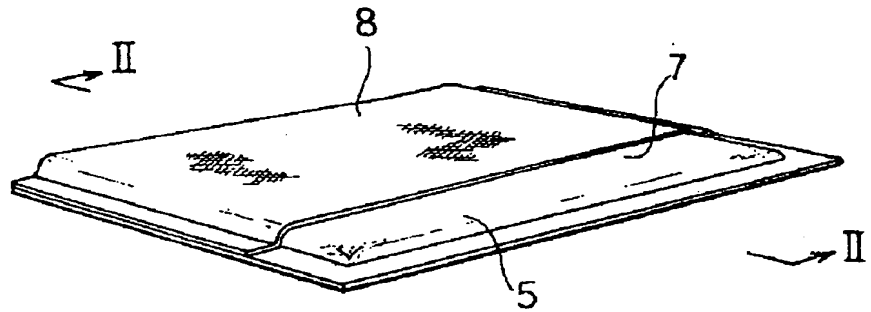
第1図は、この考案の1実施例であるマッサージ用材の斜視図、第2図は第1図のII-II断面図である。

- | | |
|------------|------------|
| 1…化学的発熱材料、 | 2…扁平袋、 |
| 3…発熱体、 | 4…防水シート、 |
| 5…不織布シート、 | 6…吸水性当接部材、 |
| 7…空間、 | 8…保持シート。 |

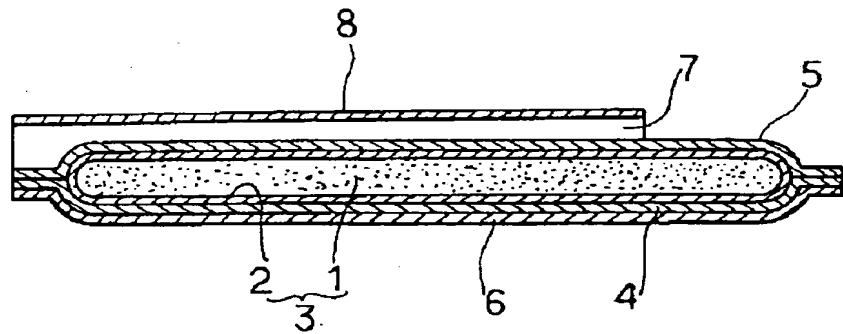
代理人 弁理士 間 宮 武



第 1 図



第 2 図



303

代理人 弁理士 間宮武雄



THIS PAGE BLANK (USPTO,